

## 薬剤部

### 1. スタッフ（平成23年4月1日現在）

薬剤部長	須藤 俊明 (腫瘍センター、医療安全対策部兼務)
副薬剤部長	岩淵 純男 加藤 朋子
主任薬剤師	鈴木 道子 渡邊健時郎(緩和ケア部兼務) 坂本 公一(感染制御部兼務) 泉 玲子(医療安全対策部兼務) 深谷 裕之(医療情報部兼務) 塚原 由江 五月女浩史 中澤 寛仁 吉岡 崇幸
薬剤師	42名
業務補助員	4名

### 2. 薬剤部の特徴

薬剤部では、医薬品の調剤、製剤、供給管理、情報提供、TDM（薬物血中濃度モニタリング）、服薬指導等を通じ、医薬品の安定供給と適正使用に貢献している。さらに、これらの業務を相互に連携させることにより、医薬品に係わるリスクの防止に努めている。

#### ・施設認定

日本臨床薬理学会認定研修施設  
日本医療薬学会認定研修施設  
日本薬剤師研修センター研修受入施設

#### ・認定薬剤師

日本臨床薬理学会認定指導薬剤師	須藤 俊明 他1名
日本臨床薬理学会認定薬剤師	荒川 昌史
日本医療薬学会認定指導薬剤師	須藤 俊明
日本医療薬学会認定薬剤師	荒川 昌史
日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム(NST)専門療法士	村上 径世
日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師	渡邊健時郎 他1名
日本病院薬剤師会精神科専門薬剤師	吉野 達規
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	中澤 寛仁 他1名
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	片野 昌宏 他2名

### 3. 実績・クリニカルインディケーター

#### 1) 業務内容

##### ①外来・入院調剤業務

調剤部門では1998年の院外処方せん発行開始以来様々な業務の合理化を行ってきた。現在は院外処方せんを発行できない一部外来患者への処方せん調剤と薬剤情報提供の他、在宅療養に必要な器材や検査処置用薬、病棟配置薬の供給、治験薬の調剤や院外の保険薬局からの疑義照会窓口として活動している。

##### ②製剤業務

製剤部門では予め使用頻度の高い薬剤の混合や分包(一般製剤・無菌製剤)、医師からの依頼による特定の患者を対象とした市販されていない剤形や規格の薬剤の調製(院内特殊製剤)、リスクの高い注射薬であるIVHや抗がん剤の混合調製を行っている。2009年5月からは病棟で使用する抗がん剤、2010年2月からはIVHの当日調製を開始し、休日を含め院内で使用する抗がん剤およびIVHの調製は全て薬剤部で実施している。

過去5年間における注射薬混合調製数(単位:本)

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
IVH (病棟・在宅)	5,525	6,320	7,534	6,243	7,807
抗がん剤(病棟)	7,173	6,647	8,338	9,983	10,658
抗がん剤(外来)	7,864	11,291	12,325	14,851	13,792
一般薬(病棟)	9,559	9,996	5,662	7,328	11,503

##### ③医薬品情報業務

医薬品情報部門では院内の医師や他の医療スタッフからの医薬品に関する問い合わせに答える他、薬効別分類医薬品集を隔年に、更に追補版をその間の年に発行している。また、医療情報システムにおける採用医薬品のマスタ管理、オンライン医薬品情報システムのメンテナンス、情報紙「医薬品情報」の発行を行っている。さらに、薬事委員会の庶務を担当し、委員会の適切な運営等に協力している。なお、薬事委員会では厚生労働省の後発医薬品使用促進政策に基づき、2007年より後発医薬品の積極的な導入を開始し、2010年は14製品(27規格)を後発医薬品へ切り替えた。

##### ④薬剤管理指導業務およびTDM(薬物血中濃度モニタリング)業務

薬剤管理指導部門では入院患者に対し、処方された薬の薬効や副作用、使用上の注意等を説明するとともに、

副作用等の発現状況の確認や、医薬品を使用する上での相談に乗る等の業務(薬剤管理指導業務)を行っている。さらに患者の薬歴を記録し、薬物療法が適正に行われるよう医師等へのアドバイスをを行っている。2010年は外来治療センターで抗がん剤および制吐剤の服薬指導を新たに開始した。また、TDM業務においては移植患者に対する免疫抑制薬の個別投与設計支援を中心にテーラーメイド医療に貢献している。

過去5年間における薬剤管理指導業務量およびTDM実施数

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
服薬指導患者数(人)	3,964	4,926	3,649	3,831	4,831
服薬指導回数(回)	4,684	6,185	7,626	7,445	7,864
退院時服薬指導(回)	1,097	1,943	1,711	1,631	1,274
TDM実施件数(件)	803	874	931	887	759

⑤薬品管理業務

医薬品管理部門では院内で使用する医薬品の安定供給および病棟に在庫する医薬品の管理に寄与している。また、2001年からは中央手術室に薬剤師1人を常駐させ、麻薬、毒薬、麻酔薬等取り扱いに注意を要する医薬品の使用管理、血液製剤を中心とする特定生物由来製剤の記録管理を実施している。さらに、2010年からは救命救急センターでの医薬品の管理を開始した。

⑥子ども医療センター薬剤部

子ども医療センターの開設に併せてセンター内に2人の薬剤師を配置し、センター内で使用する検査薬の調剤および本館調剤室で調剤した内服薬や外用薬の服薬指導等を、外来患者と入院患者を対象に実施している。また、2010年7月からは子ども医療センターに入院する患者を対象に持参薬の鑑別と持参薬情報の提供を医師や看護師へ開始した。

2) 業務実績 (2009年1月~12月)

①外来調剤に関すること

外来処方せん枚数(院内調剤分)	72,676
外来患者への薬剤情報提供件数	64,959
在宅療養用器材等交付件数	19,700
院外処方せん枚数	258,644
院外からの疑義照会受付件数	14,866

②入院調剤に関すること

入院処方せん枚数	329,517
注射処方せん枚数	185,073

③製剤に関すること

製剤総件数	17,056
注射薬混合調製本数	43,186

④医薬品管理・医薬品情報に関すること

医薬品情報室への問い合わせ件数	1,044
医療スタッフ等への情報提供件数	1,614

⑤薬剤管理指導に関すること

指導患者数	4,136
指導回数	7,864

⑥TDMに関すること

薬物血中濃度解析件数	759
------------	-----

⑦治験に関すること

治験薬受け入れ件数(新規)	26
---------------	----

3) その他

①医薬品の安全管理体制整備

近年医療事故が多数報告され、残念ながらその多くが医薬品に関連したものとなっている。薬剤部では主任薬剤師1人を医療安全対策部と兼務させ、薬剤部内はもとより院内における医薬品による医療事故の発生防止に努めている。2007年4月の改正医療法の施行により薬剤部長が医薬品安全管理責任者となり、院内における医薬品の安全使用の実施に努めているが、2008年からは薬剤部長も医療安全対策部を兼務し、医薬品による医療事故防止のための研修等を実施している。

②チーム医療への参画

薬剤部ではこれまで移植チーム、医療情報部、腫瘍センター、感染制御部および緩和ケア部等への支援体制をとってきた。2008年に新たにNST(栄養サポートチーム)の病棟ラウンドが開始となり、薬剤部からもNST専門療法士が参加している。さらに、2010年からはICTラウンドに2人の薬剤師が参加している。

③治験薬の管理

治験推進室が2008年4月からは臨床試験センターと組織改変されたが、薬剤部では引き続き治験薬の保管や調剤等を通じて適正な治験の運営に協力している。

④実習生の受け入れ

薬学教育6年制への移行に伴い2011年から薬学部学生の11週間の病院実習が新たにスタートした。薬剤部では総数19人の薬学部学生の受け入れを行い指導にあたった。また、自治医科大学が国際医療福祉大学と連携し取り組んでいる「全人的ながん医療の実践者養成」に協力し大学院生1人を受け入れた。

#### ⑤地域・僻地医療に対する貢献

薬剤部では2001年から薬剤師1人を薬剤師不足に悩む僻地病院に派遣し、僻地医療への支援を継続的に実施している。また、公衆衛生の向上に寄与する目的から薬剤部への見学者の積極的な受け入れを行った。

#### 4. 事業計画・来年の目標等

- ①PICUにおける医薬品管理の充実
- ②抗腫瘍薬治療患者への服薬指導の充実
- ③院外処方せんの増発
- ④後発医薬品の導入推進
- ⑤入院患者持参薬の管理と病棟業務の拡大